

・海外感染症流行情報 2025年8月**(1) 全世界：COVID-19の流行状況**

欧米諸国や日本では、COVID-19の夏の流行期に入っています（米国CDC 25-8-16、ヨーロッパCDC 25-8-22、厚生労働省 25-8-22）。ウイルスの種類は、日本ではNB.1.8.1型、欧米ではXFG型が多く、いずれも感染力はやや強いものの、重症度には変化がみられません（WHO COVID-19 dashboard 25-8-5）。

(2) アジア：中国・広東省でのチクングニア熱流行

今年7月から中国・広東省の仏山市を中心に、チクングニア熱の流行が発生しており、8月中旬までに患者数は9,000人を越えました（ヨーロッパCDC 25-8-22）。米国CDCは流行地域に滞在する際にチクングニア熱ワクチンの接種を推奨していますが（米国CDC Traveler's Health 25-8-11）、このワクチンは日本では承認されていません。このため、日本から渡航する際は媒介蚊に刺されない対策をとり、予防するようにしてください。

(3) アジア：アジアや西太平洋でデング熱流行が拡大

東南アジアや南アジアでは多くの国が雨季を迎えており、デング熱の流行が拡大しています（WHO 西太平洋 25-8-21、WHO 南東アジア 25-8-13）。患者数は昨年と比べて同等か少ない状況です。一方、今年は西太平洋のフィジーやサモアなどで患者数が例年より増加しており、滞在する際は注意が必要です（米国CDC Traveler's Health 25-8-21）。

(4) アジア：南アジアでインフルエンザ患者数が増加

インド、バングラディッシュ、タイでは今年7月以降、インフルエンザの患者数が増加しており、A 香港型（H3）が主に検出されています（WHO 南東アジア 25-8-13）。アジアの熱帯地域では雨季にインフルエンザが流行することがあり、今回も雨季の流行と考えられています。

(5) ヨーロッパ：フランスやイタリアで蚊媒介感染症が増加

今夏はヨーロッパで、蚊に媒介される感染症の国内感染例が多発しています（ヨーロッパCDC 25-8-22）。フランスでは地中海沿岸を中心に、8月中旬までにチクングニア熱の患者が156人、デング熱が11人、イタリアでもチクングニア熱が29人、デング熱が4人報告されています。さらにローマ近郊のラティナなどでは、ウエストナイル熱の患者が351人発生し、22人が死亡しました（英国 National Travel Health Network Center 25-8-22）。ヨーロッパCDCは、温暖化により蚊が増えていることが患者数増加の原因との見解を出しています（ヨーロッパCDC 25-8-22）。

(6) 米州：北米を中心に麻疹患者が増加

今年、米州では8月上旬までに麻疹の患者が1万人以上発生しました（米州保健機関 25-8-15）。この数は昨年同期の患者数の約30倍にのぼります。患者発生が多いのは北米の国々で、カナダが4500人、メキシコが3900人、米国が1300人となっています。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（2025年7月7日～8月10日）

最近1ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立健康危機管理研究機構・感染症情報提供サイトの感染症発生動向調査を参考に作成しました。<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/index.html>

(1) 経口感染症：輸入症例としては細菌性赤痢2人、腸管出血性大腸菌感染症29人、パラチフス1人、アメーバ赤痢2人、A型肝炎2人、E型肝炎1人が報告されています。腸管出血性大腸菌感染症は前月（23人）から増加しており、韓国での感染が26人と多くなっています。

(2) 昆虫が媒介する感染症：デング熱は16人報告され、前月（7人）から大幅に増加しました。感染国はタイ、インドネシアが各3人で最多でした。なお、今年のデング熱輸入患者の累積数は88人で、昨年同期の122人に比べて減少しています。マリアの患者は3人で、感染国はコートジボアール、ガーナ、パキスタンが各1人でした。チクングニア熱の患者は4人報告されており、

感染国はスリランカ 2 人、インドネシアとフィリピンが各 1 人でした。マダニに媒介されるライム病の輸入例が 1 人報告されており、スイスでの感染でした。

(3) その他の感染症：麻疹の輸入患者はこの期間は報告されませんでした。レプトスピラ症の輸入患者が 1 人報告され、フィリピンでの感染でした。